

適切な離間距離、知っていますか？

～暖房器具は可燃物との距離を確保して火災を防ぎましょう～
（東北版資料）

1. 事故の発生状況

2021年から2025年までの5年間で、NITEに通知があった製品事故情報※¹では、主な暖房器具※²の事故が543件発生しており、そのうち東北地方6県（青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）では31件の事故がありました。

被害状況は死亡4件、重傷2件、軽傷6件、拡大被害15件、製品破損4件となっております。



電気ストーブに布団が接触して発火

表1 「暖房器具の事故」の発生前別件数

発生年 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2021年	2	3	4			1	10
2022年	5	2	3	3	1	1	15
2023年			3	1			4
2024年			2				2
2025年							
合 計	7	5	12	4	1	2	31

表2 「暖房器具の事故」の被害状況別発生件数※³

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
人的被害	死亡	2	2				4
	重傷	1		1			2
	軽傷	2	2				6
物的被害	拡大被害	3	8	2		2	15
	製品破損	2		1	1		4
被害なし・不明							
合 計		7	5	4	1	2	31

表3 「暖房器具の事故」の原因区分別発生件数

原因区分		発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの		1				1		2
	B: 製品及び使い方に問題があったもの								
	C: 経年劣化によるもの		1						1
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの				1				1
	小 計		2		1		1		4
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの								
	E: 誤使用や不注意によるもの		3		1	1			5
	F: その他製品に起因しないもの		1	3	3	2		1	10
	小 計		4	3	4	3		1	15
その他	G1、G2: 原因不明のもの		1	2	5	1		1	10
	H: 調査中のもの				2				2
	小 計		1	2	7	1		1	12
合 計			7	5	12	4	1	2	31

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

(※2) 石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、ガスストーブ・ガスファンヒーター、オイルヒーター、電気カーペット、電気こたつ

(※3) 物的被害（拡大被害または製品破損）があった場合でも人的被害があったものは、人的被害に区分しています。

2. 主な事故事例

○ 2021年12月19日 石油温風暖房機（開放式）（宮城県、80代男性）

事故内容： 建物を全焼する火災が発生し、1名が軽傷を負った。現場に当該製品があった。

事故原因： 当該製品の吹き出し口とこたつは近接した位置に設置されていたため、こたつ布団が過熱されて出火したものと推定される。なお、取扱説明書には、「カーテン、可燃物近接禁止。ファンヒーターの前にセーターや座布団などを置かない。火災が発生するおそれがある。」旨、記載されている。

○ 2022年4月2日 石油ファンヒーター（開放式）（青森県、60代男性）

事故内容： 使用中の石油ファンヒーター付近で爆発が起き、周辺を破損し、軽傷を負った。

事故原因： 事故品に出火の痕跡は認められず、事故発生時の使用状況が不明であるが、室内に置かれていたスプレー缶が運転中の事故品の温風で過熱されて破裂し、気化した可燃性ガスに事故品の炎が引火して爆発した可能性が考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

○ 2022年10月5日 石油ストーブ（開放式）（秋田県、80代男性）

事故内容： 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因： 当該製品は、天板に樹脂製容器を置いた状態で使用したため、樹脂が溶融、焼損し出火したものと推定される。なお、取扱説明書には、警告として「可燃物近接厳禁。火災の原因になる。」旨、記載されている。

3. 暖房器具の事故を防ぐポイント

■ 「可燃物の接触」に要注意！

- ☑洗濯物や布団、衣類、クッションなどの可燃物を暖房器具の近くに置かない。
取扱説明書等に記載されている壁や可燃物との距離が十分に確保されているか確認する。
- ☑就寝時や外出時は、必ず電源を切る（火を消す）。

■ 電気 暖房器具の点検ポイント

- ☑製品がリコール対象製品ではないかを確認する。
- ☑電源コードや電源プラグが破損・変形していないか、たこ足配線になっていないかを確認する。

■ 石油 暖房器具の点検ポイント

- ☑置き台にほこり等があれば取り除く。
- ☑燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。
灯油とガソリンは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
- ☑給油時はカートリッジタンクのふたが確実に閉まっていること、漏れがないかを確認する。

4. 製品事故の実験映像につきまして

製品事故の写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。
なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構＋NITE のロゴ」としてください。

（本件に関する問い合わせ先）

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所（略称:NITE）

責任者（支所長）：齋藤 康之

担当：安海（あんかい）、福井（ふくい）、成田（なりた）

電話：022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

nite



YouTube NITE 公式アカウント



X NITE 公式アカウント



Instagram NITE 公式アカウント

